

永島家住宅 (旧武家屋敷) (三久保町)

永島家住宅は、旧南久保町通りの東側に位置しています。この付近は、川越城南大手門（現在の川越第一小学校の校庭付近）に近く、川越藩士が住む武家地でした。松平大和守家が川越藩主であった明和四年（二七六七）から慶応二年（一八六六）当時の城下絵図によると、ここには二百五十石から三百石の藩士が住んでいました。屋根はかやぶきですが、現在は金属板をかぶせています。棟の高さは三段となっていて、柱などに残された痕跡などから、大きく二回の増改築がされたと推測されます。間取りの特徴では、現在の玄関から南に四畳の部屋を経て床の間付きの座敷に至る接客目的の部屋があり、東側には家人が使用したと考えられる部屋があります。接客目的の部屋と日常生活を営む部屋が分かれるという、武家住宅の特徴をよく残しています。また、屋敷周りなども、当時の状況をよく保存しています。



県内には川越・忍（現在の行田市）・岩槻（現在のさいたま市）と三つ、江戸時代の城下町があるものの、武家屋敷は、ほとんど残されていません。関東圏でも残存事例はわずかで、同住宅は学術的にも貴重な物です。城下町・川越にとって重要な建物であり、敷地を含め、三月二十七日付けで市指定史跡となりました。

友好都市から、こんにちは！



棚倉町剣道連盟顧問・草野吉四郎さん

昭和47年、川越市と棚倉町（福島県）の友好都市締結を契機として、両市町剣道連盟による剣道交流会を実施することになり、指導監督を任せられました。第1回の親善交歓稽古から、毎年交互に開催することになりました。以後、川越市の多くの方々からご指導をいただきながら再会を楽しみに努力し、34年間の長きにわたり、交流会の充実発展に微力を尽くすことができました。ことは、7月29日に棚倉町で開催されます。この交流会が今後も継続し、両市町の友好発展へ寄与することを願っています。  
\*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは12ページ・16ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・内線2141

どんぐり

編集後記

ことは梅の開花が遅く、桜の開花が早かったため、東北や北海道では、梅より先に桜が咲くのではないかと、という新聞記事がありました。思えば、市内で梅の花を見たのは例年に比べて遅かった気がします。桜は3月の下旬に開花し、4月2日の新河岸川桜まつりでは、満開の花が訪れた人たちの目を楽しませてくれました▶4月10日発行の広報川越・デュエットのコーナーでも紹介しましたが、4月から文字を大きくし、レイアウトが変わりました。この25日発行の広報川越も内容が変更されています。いかがでしたか？▶レイアウトの変更を行いました。が、けんこうのページにある、ちっちな笑顔のコーナーは引き続き掲載します。3歳未満のお子さんの写真を掲載希望する方は、広報担当までお尋ねください。